



未来のプロフェッショナル・デザイナー129人が応募 課題「まもる」に果敢にチャレンジ ～ 第5回産業技術大学院大学デザインコンテスト受賞者決定 ～

産業技術大学院大学は、本学の創造技術専攻が取り組んでいる「デザインとエンジニアリングでものづくりにイノベーションを」について広くアピールし、創造的なものづくりやアイデアを発掘することを目的として、「まもる」をテーマに創立以来第5回目となるデザインコンテストを実施いたしました。

未来のプロフェッショナル・デザイナーを目指す全国の学生から過去最多となる129点の応募があり、下記のとおり最優秀賞1点、佳作3点を決定しました。

受賞者及び作品名

■ 最優秀賞 [副賞30万円]

○ 山下 慶太 (京都工芸繊維大学大学院 修士1年)

作品名 「Smart pin」 ～安全に保管できる画鋸の提案～

■ 佳作 [副賞5万円]

○ 瀬平 佳穂 (大阪芸術大学 1年)

作品名 「petal cradle」 ～妊婦の出産の前後をサポートする椅子～

○ 前田 崇彰 (京都工芸繊維大学 4年)

作品名 「SLIDE (スライド)」 ～レンズを保護できる眼鏡～

○ 堀部 修司 (多摩美術大学 3年)

作品名 「Cheek」 ～次世代充電式カイロ～

表彰式を以下のとおり開催します。表彰式当日は、「チョコレートとドット絵を使った新しいサービスの提案」や「モーションキャプチャで太極拳を解明」など、本学学生によるPBL(Project Based Learning)プロジェクト成果発表会も開催します。

第5回デザインコンテスト表彰式

【開催日時】 平成24年2月11日(土) 15時～15時30分

【開催場所】 東京国際フォーラム ホールB5 (千代田区丸の内3-5-1)

(PBLプロジェクト成果発表会 創造技術専攻発表会場)

産業技術大学院大学 PBL プロジェクト成果発表会

【開催日時】 平成24年2月11日(土) 10時～18時30分

【開催場所】 東京国際フォーラム ホールB5 (千代田区丸の内3-5-1)

※取材を希望される場合には、2月10日(金)までに下記担当までご連絡ください。

【問い合わせ先】 産業技術大学院大学 管理部管理課

電話 03-3472-7832 Fax 03-3472-2790

第5回 デザインコンテストの概要

○ テーマ 「まもる」

侵されないようにする。害が及ばないように防ぐ。決めたことや規則に従う。伝統文化や信条などを大切にするなど、“まもる”にはたくさんの意味がこめられています。さらに、社会の維持と発展を支えるための最も基本的で重要なテーマでもあります。“まもる”というテーマをもとに、感性デザインと機能性デザインの知識を駆使して、これまでのプロダクトをリデザインする、あるいは全く新しい発想でデザインするなど、新しいコンセプトを持った創造的で合理的な、実用性の高いモノを提案する。

○ 応募資格

産業デザインに関心のある全国の大学院・大学・短期大学・高等専門学校・専門学校で学んでいる学生

○ 最優秀賞、佳作作品の概要

別紙をご参照ください。

【同日開催】2012 産業技術大学院大学 PBL プロジェクト成果発表会について

IT 分野やイノベーションデザイン分野で、即戦力として活躍できる人材の育成を目指して取り入れている PBL 型教育の最終成果発表会として、毎年 1 回、学生がプレゼンテーション、パネル展示を行っています。

今回も、企業への業務改革提案やオリジナル板チョコ制作サービスなど多彩なテーマが揃っています。9 時 30 分開場（18 時 30 分まで、入場無料・事前申込不要・入退場自由）ですので是非ご来場ください。詳細は、本学ホームページをご覧ください。

(http://aiit.ac.jp/announce/pdf/2012_press.pdf)

本学の PBL 型教育

PBL (Project Based Learning) 型教育とは、実社会で即戦力として活躍できる人材を育成するために有効な教育手法であり、数名の学生が、明確な目標を掲げ、実際の業務の内容に近い 1 つのプロジェクトを完成させていくプロセスの中で、実社会で真に役立つスキルやノウハウを修得します。

本学の PBL 型教育には、

- ・ 実社会の活動に近い、1年間を通した**大規模なプロジェクト**
- ・ 産業界の声を取り入れた**実社会を想定したテーマ設定**
- ・ **全国的にも珍しい工学系の PBL**で、複数の教員がきめ細やかに学生を指導、評価
- ・ **さまざまな年齢、職業、職位、経験**を持つ学生がチームで協力、切磋琢磨しながら学修などの特徴があります。

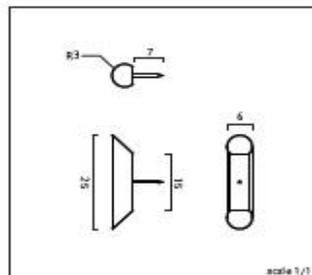
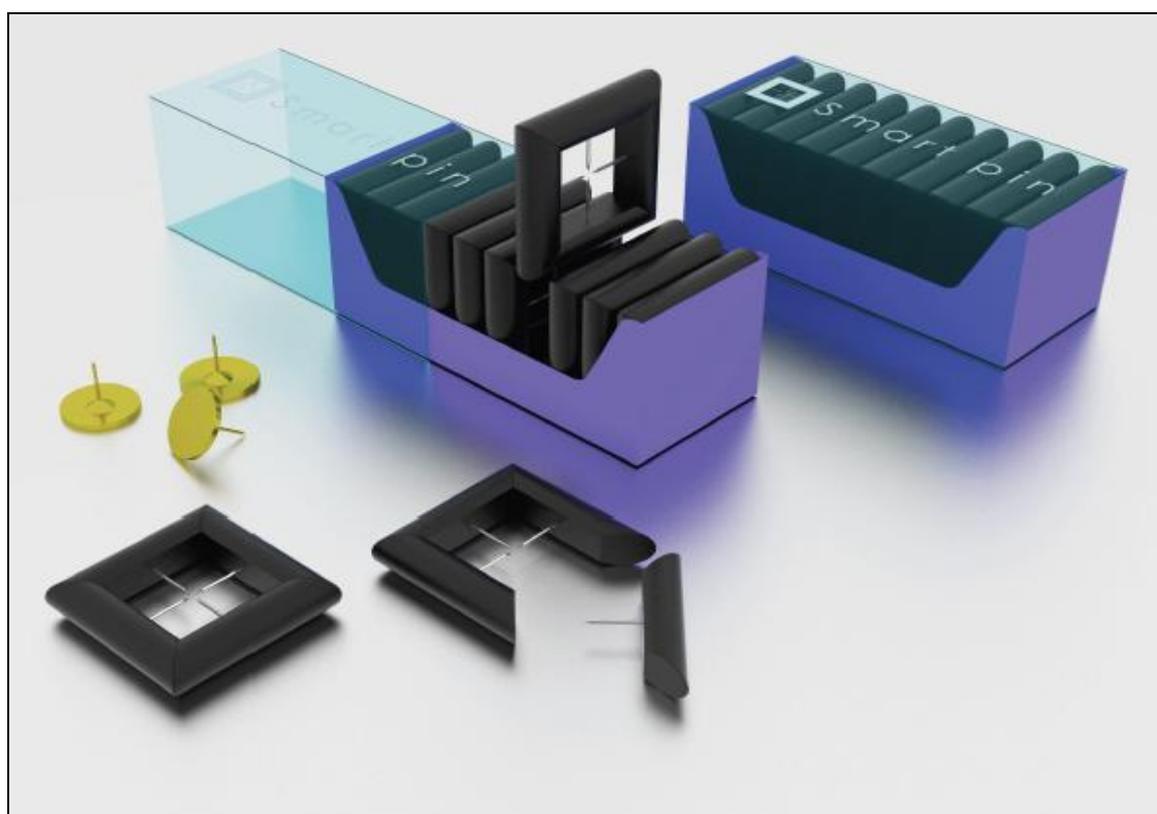
第5回産業技術大学院大学デザインコンテスト

受賞作品

○最優秀賞

山下 慶太（京都工芸繊維大学大学院 修士1年）

作品名 「Smart pin」 ～安全に保管できる画鋲の提案～




画鋲を使って壁にポスターなどを貼る場合、たいてい四隅にそれらをとめます。このことから4つの画鋲を1セットと考えました。これにより使っていないときは針同士が内側を向き、安全です。また画鋲の背中部分に R をつけることで、針が上を向いて地面に転がっている状況をなくします。収納もきれいに箱に取めることができ、取り出す時に手に針が刺さる恐れもありません。画鋲の断面に磁石を埋め込み、4つの画鋲を固定します。

〇佳 作 1

瀬平 佳穂（大阪芸術大学 1年）

作品名 「**petal cradle**」 ～妊婦の出産の前後をサポートする椅子～

petal cradle

妊婦の出産の前後を サポートする椅子

妊娠。出産。子どもの誕生。
それぞれとても喜ばしいことです。
しかし、その中で妊婦には大変な負担がかかります。

petalcradle は出産による負担から
妊婦をまもるために考えました。

petalcradle に3つのテーマを持たせました。

1つ目は**自分と子どものために**

逆子体操の補助

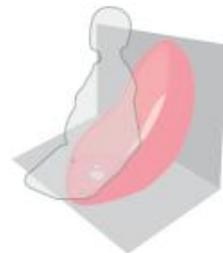
お腹の子どもが逆子での出産はリスクを伴います。
逆子体操は妊婦にとってつらい姿勢です。
その姿勢をサポートできるように考えました。



2つ目は**自分のために**

妊婦の腰への軽減

妊娠中はお腹が重いこともあり妊婦は座る時に悪い姿勢をとりがちです。悪い姿勢をとり続けていると、産後に腰痛になりやすいと言われていました。座ったときに正しい姿勢をとれるように座る場所を体重が均等にかかる円の形にしました。



3つ目は**子どものために**

ベビーベット

母親が使っていたものを子どもも使えるようにと、子どもが生まれてからのベットを考えました。



○佳 作 2

前田 崇彰（京都工芸繊維大学 4年）

作品名 「SLIDE（スライド）」 ～レンズを保護できる眼鏡～

SLIDE

コンセプト
持ち運べるメガネ

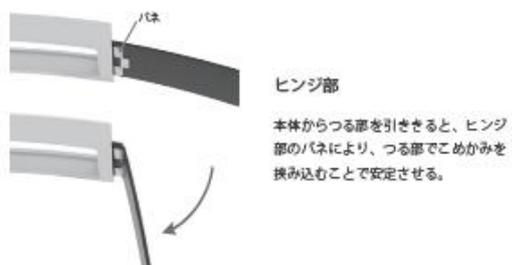
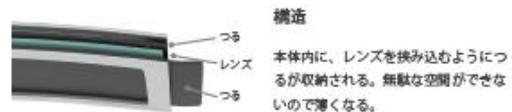


非使用時の無防備なレンズ

メガネはかけるだけの物ではない。机に置いたり、ケースに入れたり、ポケットに入れたり…。むしろその時の方がレンズに指紋や傷が付きやすく、ケアが必要だ。

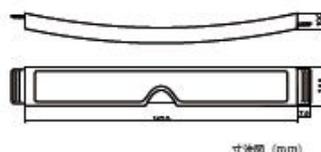
つる部分でレンズを守る

つる部分をレンズの前後にスライドさせ収納する事で、レンズを守り、薄く収納することができる。
ケースが不要なのでメガネの自由度が広がる。



老眼鏡やサングラスなどに最適

老眼鏡やサングラスなどは頻繁に掛けたり外したりを繰り返す。その度に置き場所や収納場所に困ってしまう。SLIDEはレンズが完全に隠れており、薄くなるので、ケースが無くてもデスクに置いたり鞆やポケットに入れたりでき、置き場所や収納場所に困らない。



〇佳 作 3

堀部 修司（多摩美術大学 3年）

作品名 「**C h e e k**」 ～次世代充電式カイロ～

次世代充電式カイロ

Cheek

私が「まもる」というテーマを考えた時に思いついたのは、暖かさは精神的にも肉体的にも人を守ってくれるという事でした。そこで私がデザインしたのは次世代充電式カイロ「cheek」です。これはベンジンや鉄粉、充電池を必要としない、充電式カイロです。どんな時でも役に立ち人を守ってくれるのは、日常で行う当たり前の行動です。非常時等では日常で行っていない特別な行動は出来ませんだからこそ、「cheek」は人が寒さを感じた時に行う、当たり前の行動で充電をして発熱をします。「cheek」の形状は江戸時代のカイロ「温石（おんじやく）」の歴史を踏まえ、一般的な石の形状をデフォルメした形状です。そして、本体は発熱することでほんのりと赤く発光します。これは暖かくなっている事を示すサインであると同時に、人が寒さで頬がほんのりと赤く染まる様子を表しています。



手をこすりあわせて息を吹きかけるだけ

「cheek」は本体を寒い時に手を擦り合わせるように、上下にずらす反復運動をする事で充電をします。そして、充電後に本体側面のセンサーに温かい息を吹きかける事で発熱をします。本体側面に付いている、温度調節のボタンで温度を調節する事が可能です。緑ボタン 弱モード:約40℃ / 赤ボタン 強モード:約43℃



本体を上下にずらす反復運動で充電をしているシーン



本体に息を吹きかけて発熱をさせているシーン

産業技術大学院大学について

公立大学法人首都大学東京が設置する公立の専門職大学院で、情報分野のスーパープレーヤーである「情報アーキテクト」を育成する「情報アーキテクチャ専攻」と感性と機能の統合デザイナーとしてイノベーションをもたらす「ものづくりアーキテクト」を育成する「創造技術専攻」の二つの専攻があります。

通常の大学院が研究者の育成を目的としているのに対して、本学では、高度な専門知識と体系化された技術ノウハウを活用して、新たな価値を創造し、産業の活性化に資する意欲と卓抜した業務遂行能力を持つ「高度専門技術者」の養成を目的としています。このため、社会人の学生が多い特徴があり、授業も平日夜間・土曜昼間開講中心となっています。

また、社会人など多様な経歴を持つ学生がライフスタイルに合わせた学修ができるように、クォータ制（4学期制）、講義支援システム（全ての講義がビデオ録画され、遠隔からの視聴等が可能。また、修了後 10 年間、講義の映像をインターネット経由で無料視聴できる）、長期履修制度、AITT 単位バンク制度等の各種制度を導入しています。